



【4月の気象】

4月の季語は、「桜」「春眠」「長閑」「穀雨」などがあり、冬から春になり暖かく、長閑で過ごしやすい季節となり、様々な植物が芽吹き花開くころです。当台で観測している道後公園にある桜の標本木は3月に開花（平年3月24日）し、4月に満開（平年4月3日）となります。

松山市の4月の平均気温の平年値（1991～2020年）は14.8℃ですが、旬で見ると上旬から下旬にかけて3.2℃上昇し、周期的に天気に変化することによって寒暖差も大きくなります。

暖かい空気と、冬の名残の寒気がせめぎあうことで、日本付近で低気圧が急速に発達することも多く、突風、竜巻、激しい雨、降ひょうなど激しい現象が起きることがあります。大雨注意報となるような現象も増え、低気圧が日本海を発達しながら東へ進む場合には、南よりの強風となります。一方で、移動性高気圧に覆われて晴れた朝は、4月下旬でも放射冷却現象によって気温が低下し霜が降りることがあり、農作物の管理に注意が必要です。

【気象用語】新たな防災気象情報②

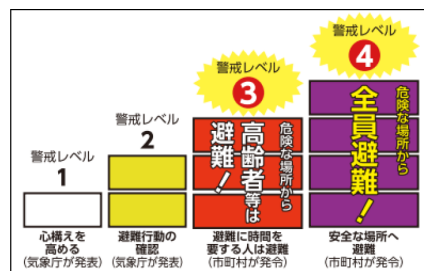
今年5月下旬から、気象台から発表する防災気象情報が大きく変わります。概要を昨年11月にお知らせしたとおり、5段階の警戒レベル（図1）にあわせて、大雨に関する情報は、レベル3大雨警戒報、新設のレベル4大雨危険警戒報、レベル5大雨特別警戒報等と発表します。

今回は、次の3点について説明します。1点目は、警戒報等を補足する気象情報についての改善です（図2）。記録的短時間大雨情報、顕著な大雨に関する気象情報、竜巻注意情報等は、極端な現象を速報的に伝える「気象防災速報（記録的短時間大雨）」等となります。

また、台風に関する気象情報、大雨に関する気象情報、線状降水帯の半日前予測を記載した気象情報は、気象状況を網羅的に解説する「気象解説情報（台風第〇号）」等となります。

2点目は、早期注意情報の改善です。5日先までの警戒級の可能性を発表していますが、5月下旬からは大雨と土砂災害を区別するほか、時間幅を翌日までは6時間、明後日は12時間幅に細分化して発表します（図3）。

3点目は、翌日までの気象状況の見通しの改善です。現在は発表中の注意報や警戒報に限り、時系列の見通しを3時間毎に確認できますが、5月下旬からは警戒報・注意報の発表に関わらず、時系列情報の対象となる全要素について1日4回発表します。例えば、翌日に台風の接近に伴い大雨や暴風、波浪、高潮など警戒級や危険警戒級の現象が予想される場合、まだ注意報が発表になっていなくても、翌日の各現象の3時間毎の見通しを確認することが出来ます（図4）。なお、想定を超える急な警戒級の現象が発生した場合など、事前の見通しとして予想できない場合もあります。



① 警戒レベル5はすでに災害が発生・切迫している状況です。

図1 内閣府の避難情報



図2 気象情報の改善

Table showing the possibility of warning levels for heavy rain and soil erosion disasters from Day 1 to Day 3. Levels range from Low to High.

図3 早期注意情報の例

Table showing time-series information for various weather phenomena (heavy rain, typhoon, waves, high tide) from 12:15 to 21:24, with color-coded risk levels (Yellow, Red, Purple).

図4 時系列情報の例（明日までの警戒等の見通し）（色はレベルに対応：黄レベル2、赤レベル3、紫レベル4）